

## 看護系大学卒業・大学院修了後の進路選択のための デシジョンエイド開発

山本加奈子\* 青木 裕見 小林 京子

### Development of a Decision Aid for Career Choices after undergraduate and graduate students in nursing programs at the university

Kanako YAMAMOTO\* Yumi AOKI Kyoko KOBAYASHI

#### [Abstract]

Recent surveys of nursing programs focusing on university graduates and postgraduate employment have reported that students do not have opinions about pursuing nursing and their motivation for applying does not match the hospitals' aim. This suggests that students may be unable to decide the career option that best fits their values. It is necessary for students to know the career path they want to pursue based on their characteristics, and perform self-directed actions for successful decision-making. For students, career decision-making is considered a difficult decision. The Ottawa Personal Decision Guide (OPDG) is designed to help with health-related or social decisions. It has been developed based on the decision-making theory. Using this guide, we might be able to support students in their career decision-making. This article reports the process of developing a decision aid to support undergraduate and graduate students in their career choices at St. Luke's International University.

[Key words] Career Choice, Decision-Making, Decision Aids, Nursing Program in Universities

#### [要 旨]

近年の看護系大学卒業・大学院修了後の就職に関する状況調査では、学生がやりたい看護についての自分の意見がない、志望動機が病院とマッチしていない等の結果が報告されている。これらは、看護系大学卒業・大学院修了を控えた学生が、自分の価値観にあった進路選択が行えていない可能性を示唆している。学生が、自分の進路について自己の特性を踏まえた上でやりたいことに向き合い、納得した進路決定のための自律的な活動をサポートする必要性が高いと考える。学生にとっての進路選択の意思決定は、難しい意思決定の1つと考えられる。「オタワ意思決定ガイド（個人用）」は、このような難しい判断や健康関連・社会的意思決定のために設計され、意思決定理論に基づき開発されている。このガイドを活用することで、学生の進路選択の意思決定をサポートすることができるのではないかと考えた。本稿では、聖路加国際大学の学部生・学士編入生、大学院生の進路選択の支援のためのデシジョンエイド開発のプロセスを報告する。

[キーワード] 進路選択、意思決定、デシジョンエイド、看護系大学

## I. はじめに

日本では、看護師不足の解消や処遇の改善、専門性の向上などを目標に掲げ、日本看護協会や厚生労働省による取り組みが進められている<sup>1)</sup>。これにより、看護系大学の新設が進み、学生数はここ10年ほどで1.5倍に増加しているが<sup>2)</sup>、就職先を病院とした場合、その採用人数には増加はなく<sup>3)</sup>就職試験における競争率が上がっている。また、厚生労働省による、病床削減や病院機能分化も進められ、地域特性に合わせた医療機関の編成や地域在宅医療の促進もあり<sup>4)</sup>、看護師の活躍の場は病院だけでなく多様となっている。さらに、助産師や保健師の資格取得のためには、大学院教育等を受ける必要もあり看護系大学を卒業した学生の進路選択は多彩である。

近年の看護系大学学生の卒業・修了後の進路選択に関する国内研究は見当たらないが、日本の大手人材・広告企業が実施する看護職員の採用状況調査では、看護学生が事前に病院情報を把握していないこと、やりたい看護についての自分の意見がない、志望動機が病院とマッチしていない、やりたいことと病院の機能がマッチしていないという結果が報告されている<sup>3)</sup>。このことは、看護系大学卒業・大学院修了を控えた学生が、自分の価値観にあった進路選択が行えていない可能性を示唆している。

看護学生にとっての進路選択の意思決定は、難しい意思決定の1つと考えられる。オタワ意思決定ガイド（個人用）は、このような難しい判断や健康関連・社会的意思決定のために設計され、意思決定理論に基づき開発されている<sup>5)-7)</sup>。このガイドを活用することで、看護学生の進路選択の意思決定をサポートすることができないかと考えた。本稿では、聖路加国際大学の学部生・学士編入生、大学院生の進路選択の支援のためのディシジョンエイド開発のプロセスを報告する。

## II. 聖路加国際大学学部生・学士編入生・大学院生の進路支援の現状

聖路加国際大学では、学部生・学士編入生、大学院の就職・進学のための専門的な支援センターがない。学生に行われているサポートは、学生部より年3回学部生と学士編入生を対象に大手人材・広告企業による病院就職のためのガイダンスの機会を設けていることに加え、アドバイザー教員や各領域の教員への個別相談、学生部・学生課の相談窓口の設置がある。また、学内webなどで「就職・進学・国試」のページを設け、就職・進学・国試ガイドブックの紹介や、学生から寄せられた体験談の紹介、求人情報などを掲載している。

就職活動では法人内部就職の方針の変化があることや、コロナ禍となり就職希望先のインターンシップのほ

とんどが中止され、学生が自分に合った就職先を検討するための情報が制限されている現状がある。さらに、就職後1年以内に退職や休職となる学生の存在が少なくないことも本学の課題になっている。これらは、学生が自分の進路について十分に検討ができていないこと、また進路に関する意思決定の方法が理解できていない可能性があることが要因と考えられる。一方で、大学院修了予定者への進路支援では、学生の所属する領域ごとでの支援が中心であり、学生の支援に関するニーズや満足度については不明確な部分が多い。

また、学生を支援する教員も、進路支援の難しさや課題を強く感じている。通常の大学業務である学生への教育や研究活動のほかに、学生の進路支援に費やす時間と労力は年々増している。学生が、自分の進路について自己の特性を踏まえた上で、やりたいことに向き合い、納得した進路決定のための自律的な活動をサポートする必要性は高い。

## III. 進路選択のためのディシジョンエイドの開発

### 1. 進路選択のディシジョンエイド開発のための課題と取り組みの目標

多くの学生は自分の進路に関して、将来働きたい病院・部署、大学などに関連したメリットのみに注目する傾向にあり、デメリットを含めた情報収集と検討が行えていない。また、自分の価値観や健康課題がある時などに健康状態とのバランスの取れた将来像を検討することが苦手で、表面的な価値観によって進路を決定した結果、就職活動がスムーズでない、就職後に困難を抱えるなどが生じている可能性がある。また、十分に自己に向き合わずにいることが、進路決定に対する納得を伴った自律的な活動を阻害していると考えられる。

これらの課題を解決するために、進路支援のディシジョンエイドを開発することで以下の3つが期待できると考えた。

1. 聖路加国際大学の学部3年生と学士編入3年生、大学院生の進路選択のための支援ツールが開発され、学生が主体的に進路選択の活動を行える。
2. 本学独自の進路選択のための支援ツールが開発され、学生に提供されることで学生の就職・進学支援への満足度が向上する。
3. 進路選択のための支援ツールが開発されることで、教職員の進路支援に関する負担が軽減される。

### 2. 進路選択のディシジョンエイド開発のプロセス

#### 1) ディシジョンエイド

ディシジョンエイドとは、元々、患者の価値観に沿った意思決定を効果的に支援するために、1990年代から欧

米で開発が進められてきたツールである。必要な意思決定を明確にし、選択肢と結果に関する情報を提供し、個人の価値観を明確にすることによって対象者本人が意思決定に関与することを支援するものである<sup>8)</sup>。ディシジョンエイドが必要になるのは、十分に情報がなければ決められない場合や、何を大切にするか熟考しなければ答えが出せないような難しい意思決定である<sup>9)</sup>。ディシジョンエイドの目的は、意思決定の質を向上させることである。このためには、十分な情報を得ることと自分の価値観を明確にすることが必要になり、これにより納得した意思決定につながる。ディシジョンエイドの使用により、意思決定の葛藤が減ることや意思決定への満足度が向上すること、意思決定のプロセスに満足しやすいことなどがすでに明らかになっている<sup>10)</sup>。

ディシジョンエイドの特徴には、選択肢を並べてそれぞれの長所や短所を比較する一覧表を自分で作成し、選択肢における価値観を明確にしていくプロセスがある。長所だけでなく短所も評価し、選択肢に優先度をつけていくことで、選択の決定を支援する。

## 2) 開発のベースとしたツール

進路選択のためのディシジョンエイドは、Ottawa Personal Decision Guide For People Making Health or Social Decisionの日本語版をベースに開発を進めた<sup>6), 7)</sup>。このツールは、健康関連または社会的意思決定のために設計され、主に4つのステップで構成されている。

STEP1：決定することを明確にする

STEP2：ニーズの探求（知識、価値観、サポート）

STEP3：意思決定の必要性を特定する

STEP4：ニーズに基づき、次のステップを計画する

## 3) 進路選択のディシジョンエイドの構成

進路選択のためのディシジョンエイドの構成を表1に示す。タイトルを「進路選択ガイドー私らしい将来の意思決定ー」とした。進路選択のディシジョンエイドは

表1 進路選択のディシジョンエイドの構成

項目	ページ数	形式
ディシジョンエイドの使い方	4	読む
STEP1		
納得して決めるための方法を知る	1	読む
卒業・終了後のプロセス	1	読む・書く
決めるべきことを明らかにしましょう	1	書く
STEP2_選択肢について知る		
就職について	3	読む
就職について_価値観を明らかにしましょう	1	書く
進学について	2	読む
進学について_価値観を明らかにしましょう	1	書く
留学する・海外で働く	1	読む
STEP3_決めるべきことを検討しましょう	2	書く
STEP4_意思決定のサポート	1	書く
決めるにあたって必要なことを確認しましょう	1	書く
STEP5_必要に応じて次のステップを考えましょう	2	読む・書く
決める	1	書く

合計28ページあり、読んだり書き込んだりしながら使用する構成とした。また、このガイドは一人で使用するだけでなく、学生が友人や家族と使用したり、教員との相談で使用したりすることもできるように設計した。開発したディシジョンエイドの内容の一部を図1-5に示す。

STEP1 決めるべきことを明らかにしましょう

• 決まなければならないことは何ですか？

例: 大学卒業後にどの病院に就職をするか

• なぜ決めなければならないのですか？

例: 就職を予定しているが、自分にあった就職先を選択できるか心配

• いつまでに決める必要がありますか？

例: 2ヶ月後の3月末（聖路加国際病院への内部就職受験の場合、内定辞退は不可）

• 今、どんな段階ですか？ チェックしてみましょう。

☒ ☐ まだ考えていない ☐ もう少しで決められる

☐ 今考えている ☐ もう決めている

図1 進路選択のディシジョンエイド (STEP1)





**STEP5 必要に応じて次のステップを考えましょう**

意思決定に必要なことの中から、あなたが試してみても良いと思うものにチェックを入れてみましょう。☑

知識	<input type="checkbox"/> 各選択肢についてもっとよく考え、長所・短所に挙げたことが実際に起こる可能性についてさらに調べてみましょう。 <input type="checkbox"/> 疑問点を書き出してみましょう。
十分な情報が得られていないと思う場合	<input type="checkbox"/> どこで答えを見つけられるか書き出してみましょう（例えば、図書館で調べる、専門家に聞く、インターンシップに参加する、オープンキャンパスに参加するなど）
価値観	<input type="checkbox"/> STEP3で書いた星の数を再確認して、一番気になる要素は何か、考えてみましょう。 <input type="checkbox"/> 長所と短所が起こった場合にどうなるのか、実際に知っている人に聞いてみましょう。 <input type="checkbox"/> 以前に同じような意思決定をしたことのある人と話をしてみましょう。
どの長所・短所が気になるかはっきりしていない場合…	<input type="checkbox"/> 他の人が何を重視したのか、書かれたものを読んでみましょう。（学内であれば、なでしこWebの「就職・進学・国試」のページ） <input type="checkbox"/> あなたにとって何が一番重要か、他の人と話し合ってみましょう。
サポート	<input type="checkbox"/> あなたの選択肢について、信頼する人と話し合ってみましょう。（例えば、専門家、家族、友人、先輩、教員など） <input type="checkbox"/> あなたの選択のサポートを探しましょう。（例えば、金銭的な補助、交通の手段の確保、子供の預け先など）
十分なサポートが得られていないと思う場合	<input type="checkbox"/> あなたにとって重要だと思う人の意見について考えてみましょう。 <input type="checkbox"/> あなたにとって重要な人たちに、あなたが記入したこのガイドと一緒に見てもらいましょう。 <input type="checkbox"/> あなたにとって重要な人たちに、このガイドに記入してもらいましょう。（どの部分があなたと意見が一致か確認しましょう/もし事実についての理解が違うときには、もう少し調べてみましょう/あなたが重視するポイントが違う場合は、その人がなぜそう思っているのか考えてみましょう/他の人が重視するポイントを順に聞いて回ってみましょう） <input type="checkbox"/> 間に入ってもらって第三者を見つけましょう。
いずれかを選ぶにあたって誰かからのプレッシャーを感じる場合…	

図5 進路選択のディシジョンエイド（STEP5）

#### 4) 進路選択のディシジョンエイドの試作版の活用例

ディシジョンエイドの作成においては、当事者の参加が重要と言われている<sup>7)</sup>。このため、試作版の進路選択のディシジョンエイドは、実際に進路選択を終えた学部生・学士編入生、大学院生と学生を支援する教職員に協力してもらい、わかりやすさや有用性を評価してもらうことで内容の洗練を図る必要がある。また、このプロセスを経て、進路選択のディシジョンエイドをさらに改訂させた上で、24年度就職予定学生が試用できることを目指している。

進路選択のディシジョンエイドの活用例を図6に示す。

#### IV. 進路選択のディシジョンエイドの活用により期待される効果と今後の課題

進路選択のディシジョンエイドを使用することで、学生が選択肢を並べて、それぞれの長所や短所を比較する作業がうまれる。これまで行われていたようなガイダンスや教員による選択肢の特徴を口頭や文章で順番に説明する形では、同異点が比較しにくく、学生が自分の価値観にあった選択肢の比較が難しかった。しかし、進路選択のディシジョンエイドを用いることで、学生が自分で挙げた選択肢について、それぞれの長所や短所を自分の価値観に合わせて比較できることで、価値観の明確化につながり納得した意思決定につなげられることが期待で

きる。将来的には、進路選択のディシジョンエイドを活用して進路決定した卒業生や修了生が、進路選択に満足し、自らのキャリアを主体的に開発していくことができるように支援を行うことが求められる。以下に、目標とする短期効果と長期効果を示す。

##### (短期効果)

1. 進路選択に関する学生の主体性の向上
2. 進路選択を行う学生が自律的に意思決定できる
3. 学生の進路選択に関する意思決定への満足度の向上
4. 進路支援を行う教職員の負担（時間、労力）の軽減

##### (長期効果)

1. 決定した進路先での満足度が高い
2. 決定した進路先での離職率の低下（特に就職1年以内の離職）

進路選択のディシジョンエイドは、学生が自分の価値観を明確にしたり、選択肢を比較検討したりすることに役立つツールではあるが、これだけでは十分な学生支援にはならないとも考えている。学生にとって、将来の進路選択は重要な意思決定であるがゆえに、自己分析の結果に反してでも自分の希望する就職先や進学先にチャレンジしたいという思いがあることや、必ずしも自分が希望する就職先や進学先に決定しないことも少なくない。どの進路に決定しても、学生にとって後悔が残らない進路選択の仕方ができることを支援すると同時に、就職・進学活動の充実のための支援センターの設置も検討が求められる。

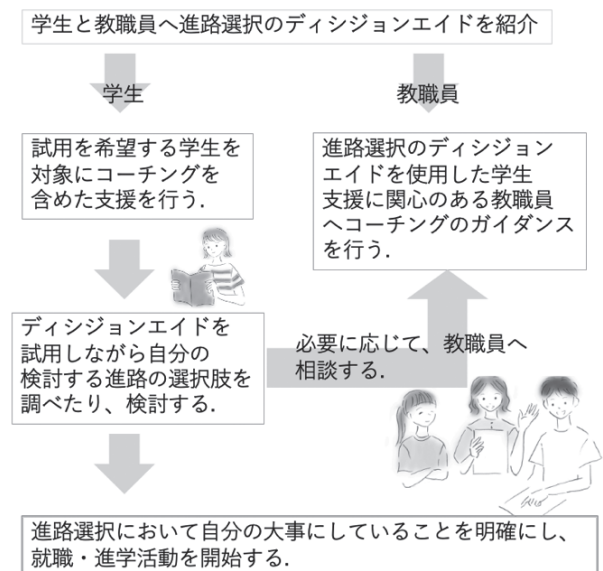


図6 進路選択のディシジョンエイドの試用例

#### 引用文献

- 1) 日本看護協会. 2025年に向けた看護の挑戦看護の将来のビジョン [Internet]. <https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/index.html> [参照 2022-10-15]

- 2) e-Stat 政府統計の総合窓口統計で見る日本看護師等学校養成所入学状況及び卒業就業調査 [internet]. [https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1 & layout=datalist&toukei=00450141&tstat=000001022606&cycle=8 &tclass1=000001159526&tclass2=000001159527&tclass3val=0](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450141&tstat=000001022606&cycle=8&tclass1=000001159526&tclass2=000001159527&tclass3val=0) [参照 2022-10-15]
- 3) マイナビ 看護学生 (2022) . 就職活動スタート講座. [Internet]. <https://drive.google.com/drive/folders/10DkJX9fjO4J8W9uvLSrd5wH42ff945Y5>.
- 4) 厚生労働省医政局地域医療計画課. 地域医療構想について(令和元年6月7日) [Internet]. <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000516866.pdf> [参照 2022-10-15]
- 5) Ottawa Hospital Research Institute. Patient Decision Aids Personal decision guide (2015) . [Internet]. <https://decisionaid.ohri.ca/decguide.html> [参照 2022-10-15]
- 6) 日本語版オタワ個人意思決定ガイド2015年版(2019/10 翻訳修正) [Internet]. [https://www.clg.niigata-u.ac.jp/~arimori/kaken/?page\\_id=99](https://www.clg.niigata-u.ac.jp/~arimori/kaken/?page_id=99) [参照 2022-10-18]
- 7) Ottawa Hospital Research Institute. Ottawa Personal Decision Guide. [Internet]. [https://decisionaid.ohri.ca/docs/das/OPDG\\_Japanese.pdf](https://decisionaid.ohri.ca/docs/das/OPDG_Japanese.pdf) [参照 2022-10-15]
- 8) 中山和弘. 患者中心の意思決定. 手術医学. 2019; 40 (2):91-96.
- 9) 中山和弘, 大坂和可子. 意思決定支援ツール (decision aids) の作成・活用. 中山健夫編著. これから始める! シェアード・ディジションメイキング 新しい医療のコミュニケーション. 東京. 日本医事新報社; 2017.
- 10) Stacey D, Légaré F, Lewis K, et al. Decision aids for people facing health treatment or screening decisions. Cochrane Database Syst Rev. 2017; 4 (4):CD001431.